

《 競技注意事項 》

1 競技規則について

本大会は、2026 年(公財)日本陸上競技連盟競技規則と本大会要項ならびに申し合わせ事項により実施する。

2 練習について

- (1) 練習は「公開練習について」に従い実施すること。
- (2) 競技場内での練習は競技役員、その他の会場については練習場系の指示に従うこと。特に投てき練習については監督またはコーチの付き添いのもと事故防止に努めること。

3 招集について

- (1) 招集所(競技者係)の位置は、スタンド裏(フィニッシュ側・会場図参照)に設ける。欠場届、多種目同時出場届、リレーオーダー用紙は競技者係に提出すること。
- (2) 競技者は、招集開始時刻から完了時刻までの間に待機し、最終点呼を受けること。
- (3) 競技者係に備えているものは、次の通りとする。

	提出書類	提出先	提出時間
1	欠場届	競技者係	招集開始時刻まで
2	多種目同時出場届		第1種目の招集開始時刻まで
3	リレーオーダー用紙		各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前まで

- (4) 招集はすべて競技者係の指示に従う。招集開始時刻・完了時刻は次の通りとする。詳細は競技日程を確認すること。

種目		予選		準決勝・TR・決勝	
		招集開始時刻	招集完了時刻	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		25 分前	15 分前	20 分前	15 分前
リレー競技		25 分前	20 分前		
フィールド競技	走高跳	45 分前	35 分前	30 分前	25 分前
	棒高跳	75 分前	65 分前	60 分前	50 分前
	走幅跳	55 分前	45 分前	30 分前	25 分前
	砲丸投	35 分前	25 分前	30 分前	25 分前

四種競技		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	ハードル・200m・400m	25 分前	15 分前
フィールド競技	走高跳・砲丸投	40 分前	30 分前

- (5) ミュージックプレイヤー・携帯電話・その他類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。【TR 6.3.2】
- (6) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を欠場したものとして処理する。
- (7) 招集完了後、競技者待機所で待機し、勝手にその場を離れてはならない。移動等は、競技者係の指示に従うこと。
- (8) 代理人による招集の最終確認は認めない。2 種目を同時に兼ねて出場する競技者は、該当競技の最初の種目の招集開始時刻前までに多種目同時出場届に必要事項を記入し、招集所(競技者係)に提出すること。なお、多種目同時出場届について「申し合わせ事項」を参照すること。
- (9) 2 種目同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。走高跳・棒高跳においては、事前に申告すれば「無効試技扱い」とみなす。
- (10) リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに招集所(競技者係)に提出すること。なお、予選のオーダー用紙提出は、第1日目の7:30 から招集所で受け付ける。
- (11) 混成競技(四種競技)の招集は、すべての種目において招集所で競技者係が確認し、移動する。

4 競技規則について

(1) トラック競技

- ① 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- ② 「不適切行為」に関しては審判長より警告（イエローカード）を与えられることがある。本大会では、この場合はイエローカード2枚で当該種目のみを失格（レッドカード）とするが、それ以後の種目からは除外しない。
- ③ 写真判定のため、腰ナンバーカードを使用するがリレーの場合は第4走者のみとする。
- ④ リレー競技のマーカ―は、招集所で点呼の際に競技者係より受け取る。使用は1カ所とし、使用したマーカ―は競技終了後そのチームで処理すること。
- ⑤ 1500m決勝は16名で行う。
- ⑥ 3000m予選はグループスタートとする。また、決勝は18名でグループスタートとする。

(2) フィールド競技

- ① 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従う。
- ② 競技者は審判員の許可を得ることなく、勝手に競技場所を離れることはできない。【TR25.19】
- ③ 競技者・監督・コーチといえども、その競技に出場する者以外は競技場内に入ることはできない。フィールド競技では「コーチング席（エリア）」を設ける。このエリアから監督・コーチのみが競技者への助言を行うことができる。競技者に対してビデオ等の映像を見せることや画像をより詳しく見るために、競技者は画像を撮影した人とコミュニケーションをとりながら録画再生機器を手にしても良い。【TR6.4.5】
- ④ 審判長が認めた場合、帽子、靴、衣類、水、氷などは、該当審判員を通して渡すことができる。【TR6.4.6】
- ⑤ 砲丸投で回転投法の競技者は投擲審判員に申し出ること。

(3) 競技用靴について

- ① スパイクシューズのピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。なお、スパイクピンの数は11本以内とする。【TR5.2】
- ② 靴底の最大の厚さについては、トラック競技・フィールド競技ともに20mmまでとする。（サークル投てき種目を除く）【TR5.2】

(4) アスリートビブスについて

- ① アスリートビブスは、縫い付けるか安全ピンで確実に止めること。（走高跳・棒高跳・走幅跳に出場する競技者は胸部または背部のいずれか一方でよい。また折り曲げたりせず、配布された形で着用すること。【TR5.7及びTR5.8及びTR5.9】
- ② トラック競技の出場者は、出発係（現地で）より腰ナンバーカード（シール式）を受け取り、ランニングパンツの右腰やや後方に取り付ける。シールを剥がしたゴミは、指定された（スタート地点）ゴミ袋に捨てること。使用後の腰ナンバーカードについては各自で持ち帰ること。【TR5.10】
- ③ 3000mの競技については、最終点呼時に競技者係から指定のアスリートビブス（黄色）・腰ナンバーを受け取り、胸部・右腰に取り付ける。競技後は、アスリートビブス（黄色）を返却すること。

(5) 競技用具について

- ① 競技に使用する用器具は、棒高跳のポール以外全て主催者が準備したものを使用しなければならない。
- ② 個人使用のポールは、検定を受け合格したもののみ使用できる。検定は棒高跳ピットで担当審判員が行う。

5 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) トラック競技の予選のレーン順、フィールドの試技順は、プログラム記載に示された上から下への番号順とする。ただし、四種競技は、種目ごとに試技順が違うのでプログラムで確認すること。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝のレーン順及びフィールド競技決勝の試技順は番組編成員で公平に抽選し、記録掲示板および大会HPに掲示する。

- (3) トラック競技において次のラウンド進出者を決めるにあたり、【TR21.1～5】を適用する。
- (4) 抽選が必要な場合は、当該競技者にアナウンスで連絡し、大会本部において当該競技者あるいは代理人による抽選を行う。尚、アナウンス後5分を経過しても当該競技者あるいは代理人がこなかった場合は、主催者が代行する。
- (5) 200m、400m、800m は予選の記録上位 8 名が決勝、決勝進出者を除いた記録上位 8 名が、TR（トライアルレース）に進出するものとする。また、表彰者は決勝進出者が対象となる。

6 走高跳・棒高跳について

- (1) 予選のバーの上げ方は次の通りとする。

種目種別	練習	開始の高さ	2	3	4	5	6	7	8
男子 走高跳	1m56 1m80	1m61	1m66	1m71	1m74	1m77	1m80	1m83	1m86 予選通過
女子 走高跳	1m35 1m55	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m60 予選通過	
男子 棒高跳	2m50 3m00 3m50 4m00	2m60	20cmずつ上げる		4m00 予選通過				

※予選通過記録より低くても、決勝進出者数に達した場合は、その時点で終了とする。【TR25.14】

- (2) 決勝のバーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決定するまでは下表の上げ幅を変えてはならない。ただし、【TR26.4.2】の場合は除く。

種目種別	練習	開始の高さ	2	3	4	5	6	7	
男子 走高跳	1m61 1m86	1m66	1m71	1m74	1m77	1m80	1m83	1m86 全国標準記録	以降3cm ずつ上げる
女子 走高跳	1m40 1m60	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m60 全国標準記録	以降3cm ずつ上げる	
男子 棒高跳	3m00 3m50 4m00	3m20	10cmずつ 上げる	4m00 全国標準記録	以降5cm ずつ上げる				

- (3) 混成競技

種目種別	練習			開始の高さ	
男子 走高跳	1m27	1m45	1m60	1m30	以降3cmずつ上げる【TR39.8.4】
女子 走高跳	1m12	1m27	1m39	1m15	以降3cmずつ上げる【TR39.8.4】

7 走幅跳・砲丸投について

- (1) 予選通過記録は、下記の通りとする。

種目種別	男子	女子
走幅跳	6m60	5m40
砲丸投	13m40	12m50

8 結果発表と抗議について

- (1) 各種目の結果発表は、アナウンス及び掲示板で行う。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、【TR 8.2】によって定められた時間内（同一日に次のラウンドが行われる場合はアナウンス後 15 分、それ以外は 30 分）に各地区専門委員長（または代理の者）が総務員を通じて審判長に対し

て口頭で行い、審判長からの裁定を聞く。さらにこの裁定に不服の場合は、預託金（20,000 円）を添えて、総務員を通じて「上訴申立書」で申し出る。なお、ジュリーの裁定が最終の決定となる。「上訴申立書」を本部に用意する。

9 競技場への入退場について

- (1) 競技者は、招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。
- (2) トラック競技においてスタート前に脱いだ衣類の運搬は行わない。各自で用意した袋等に入れ指示された所定の場所に置くこと。競技（レース）終了後、競技役員の指示に従い、各自でスタート位置まで帰り、荷物を持って退場する。フィールド競技においてトップ8に残らなかった者は、競技役員の指示に従い最寄りのゲートより退場する。
- (3) 会場内（本競技場）への入退場及び場内では ID カードを必ず着用すること（競技者は除く）。
- (4) 正面スタンド前（本部席前）は通行禁止とする。

10 表彰について

- (1) 各種目の優勝者と 2・3 位には賞状とメダル、4 位から 8 位には賞状を授与する。入賞者は競技役員の指示により、主催者によって設けられた表彰場において受賞する。リレー優勝校には、終了式にて優勝杯も授与する。
- (2) 競技場での表彰時の服装は、迷惑撮影、盗撮防止の観点から、競技用ユニフォームは禁止とする。

11 テントの設置及びのぼりについて

- (1) テントを設置する場合は注意事項を守り、各チーム責任を持って取り扱うこと。
- (2) 各地区および各チームのテントは、主催者側が示した場所への設置のみとする。地区中体連ごとに割り当てに従い、範囲内に設営すること。不足の場合は、競技場周辺のテント設営をしてもよい。
- (3) 競技場内のテント設営は、バックスタンド及びサイドスタンドとする。ただし、メインスタンド横の芝生は禁止とする。テントは各自・各チームの管理責任とし、主催者は一切責任を負わない。
- (4) 大会期間中、設置したままでよいが、風などで飛ばないように気をつけること。
- (5) 競技場外のテント設営は、指定された場所以外に張ることを禁止とする。設置できる場所は、大会ホームページで確認すること。なお、競技場外のテントは毎日撤去し、ひも・テープ等の目印をつけることも一切禁止とする。発見した場合は撤去する。
- (6) 大会競技中及び期間中に強風などにより撤去をお願いすることもあるので、アナウンスの指示に従うこと。
- (7) 横断幕、のぼり旗の設置は、競技運営に支障のない範囲で可とする。メインスタンドに掲示することはできない。

12 その他

- (1) 競技中に発生した傷害・疾病については、応急処置は主催者（医務員）にて行うが、以後の責任は負わない。
- (2) 大会期間中の貴重品の管理は各自で行い、紛失等に関して、主催者は一切の責任を負わない。
- (3) リレー競技については、同一色のユニフォームを着用すること。
- (4) 競技進行上、競技開始時刻に多少の変更もあり得るので、アナウンスを聞き漏らさないよう注意すること。
- (5) プログラム正誤表は出場種目のある日の午前 7 時 30 分までに競技者係へ提出すること。
- (6) 携帯電話、その他類似の機器を競技場内で所持及び使用することを禁止する。
- (7) 競技者の個人情報保護の観点から、写真・ビデオ等の撮影については、以下の事項を禁止とする。
 - ① 競技者の保護者および本人の同意のない撮影。
 - ② 撮影禁止区域での撮影。
 - ③ 競技者がスターティングブロックの足合わせをしているときの撮影。
 - ④ 試技を待っている間や、身体を動かしているときの撮影。
 - ⑤ ホームストレート延長線上での撮影。
 - ⑥ その他、事務局から禁止の指示があった撮影。
 - 1) 撮影禁止エリア（スタート時の前方・後方からの撮影や走幅跳砂場正面など）での撮影は不可。
 - 2) 会場内では、携帯電話（スマートフォン）とタブレットのみ撮影可能。ビデオカメラ、デジタルカメラ、一眼レフカメラでの撮影は不可。